

中山間地域の現状認識と課題

H26.1 中山間地域振興推進本部

※表における「中山間地域」は、統計上抽出可能な区域としている。具体的には次のとおり。 a: 中山間地域振興条例に基づく中山間地域 b: 過疎法に基づく過疎地域 c: 過疎法に基づく全域過疎市町 d: 備北圏域(三次市、庄原市)

○中山間地域の現状

【人口】

人口及び面積 (単位: 人, %, km²)

項目	人口	面積
広島県全域	2,860,750	8,480
うち中山間地域 a (構成比)	351,578 (12.3)	5,952 (70.2)

※H22 国勢調査及び農林業センサス 2010

7割の面積に1割の人口～人口密度が低い

人口構成 (単位: 千人, %)

	広島県		全国	
	全域	うち中山間地域 b	全域	うち中山間地域 b
14歳未満	387 (13.5)	30 (10.7)	16,803 (13.1)	1,178 (11.4)
15歳以上～64歳未満	1,765 (61.7)	149 (52.5)	81,031 (63.3)	5,711 (55.3)
65歳以上	677 (23.7)	104 (36.7)	29,246 (22.8)	3,427 (33.2)
合計	2,861 (100.0)	284 (100.0)	128,057 (100.0)	10,326 (100.0)

※H22 国勢調査

全域より10%以上高い高齢化率(全国比でもやや高い)

人口移動の内訳 (H20-H24 平均) (単位: 人)

	社会増減	自然増減	計	H24人口
広島県全域	▲2,575	▲2,110	▲4,684	2,849,104
うち中山間地域 c	▲1,104	▲2,234	▲3,338	212,214

※人口移動統計調査(甲調査)

人口規模割合で全域より大きく減少

転入転出差引と移動の要因 (主因者・H20-H24 平均) (単位: 人)

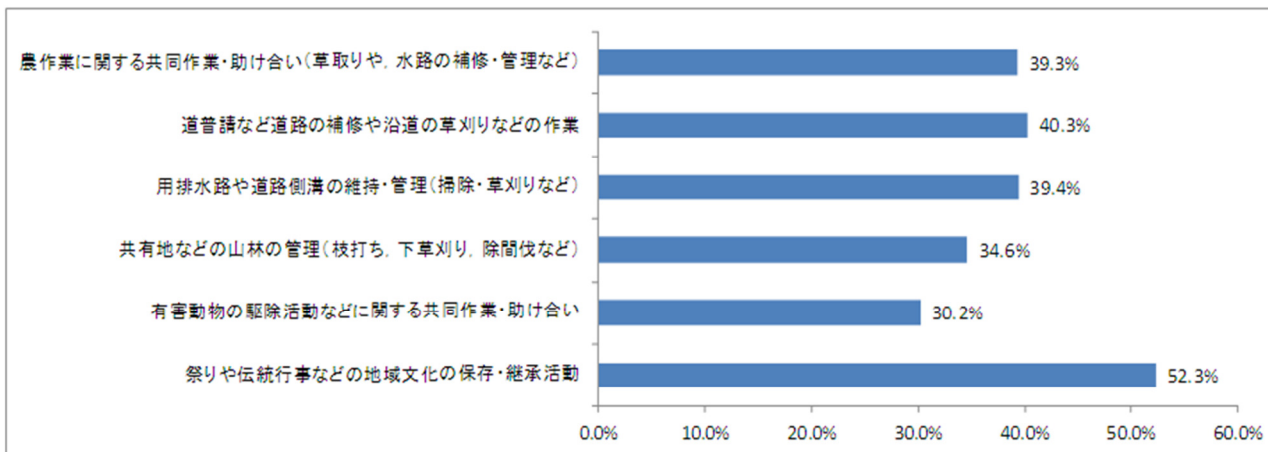
	就職	転勤・転業	退職・廃業	就学	卒業	婚姻	住宅	その他・不詳	計
広島県全域	▲1,234	▲973	204	▲1,184	105	▲240	23	▲364	▲3,663
うち中山間地域 c	▲605	▲393	68	▲227	12	▲224	▲72	▲291	▲1,731

※人口移動統計調査(乙調査)

転出超過要因は仕事、就学が多い

【集落】

集落単独では維持が困難になっている活動(上位項目)(全国) (単位: %)



※「過疎地域における集落対策及びソフト事業の実施状況に関する調査報告書」(H24 総務省)(過疎関係市町村へのアンケート結果)

共同作業や文化の保存継承などの維持困難化

【意識】

今後の暮らし向き (単位: %)

	広島県全域			うち中山間地域 d		
	H23	H20	H17	H23	H20	H17
非常に良くなっていくと思う	1.8	1.5	1.9	0.4	0.4	0.0
少しは良くなっていくと思う	11.6	7.7	12.2	11.5	4.0	7.5
小計	13.4	9.2	14.1	11.9	4.4	7.5
変わらない	30.0	23.3	29.6	33.8	18.0	30.8
少し悪くなっていくと思う	35.8	40.4	35.5	37.2	43.0	34.4
非常に悪くなっていくと思う	12.3	20.4	12.0	9.3	27.9	18.5
小計	48.1	60.8	47.5	46.5	70.9	52.9
分からない	5.4	4.5	7.9	5.2	4.0	7.5
無回答	3.1	2.1	0.8	2.6	2.6	1.3

※県政世論調査

今後の暮らし向きが良くなると考える人の割合が全域より少ない。

【推計】

人口推計・年齢構成別（人数、割合） (単位：千人、%)

	H22年	推計人口						減少率 (H22-H52)
		H27年	H32年	H37年	H42年	H47年	H52年	
広島県全域	2,861	2,825	2,767	2,689	2,599	2,499	2,391	▲16.4
0-14歳	387 (13.5)	367 (13.0)	341 (12.3)	311 (11.6)	284 (10.9)	267 (10.7)	256 (10.7)	▲33.8
15-64歳	1,788 (62.5)	1,664 (58.9)	1,587 (57.4)	1,533 (57.0)	1,476 (56.8)	1,391 (55.7)	1,271 (53.2)	▲28.9
65歳以上	686 (24.0)	794 (28.1)	839 (30.3)	844 (31.4)	839 (32.3)	840 (33.6)	864 (36.1)	26.0
うち中山間地域c	219	204	189	175	161	149	137	▲37.5
0-14歳	24 (11.1)	22 (10.7)	19 (10.1)	17 (9.6)	15 (9.3)	14 (9.3)	13 (9.5)	▲46.6
15-64歳	116 (53.0)	101 (49.8)	91 (48.2)	83 (47.6)	77 (47.9)	71 (47.8)	64 (46.5)	▲45.2
65歳以上	79 (35.9)	80 (39.5)	79 (41.7)	75 (42.8)	69 (42.8)	64 (42.9)	60 (44.0)	▲23.4

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3)

各年齢層において高い減少率

産業・雇用、
生活基盤の縮小

【産業雇用】

農業産出額の状況 (単位：千万円、%)

	S60年	H2年	H12年	H18年	S60-H18	
					差引	増減率
広島県全域	16,133	13,842	11,600	10,690	▲5,443	▲33.7
うち中山間地域c	7,656	6,786	5,833	5,487	▲2,169	▲28.3

※農業センサス

小売業の状況 (単位：事業所、人、%)

	H14年	H19年	H14-H19	
			差引	増減率
広島県	30,929	27,035	▲3,894	▲12.6
事業所数				
就業者数	199,312	191,731	▲7,581	▲3.8
うち中山間地域c	3,696	3,198	▲498	▲13.5
事業所数				
就業者数	17,087	15,595	▲1,492	▲8.7

※商業統計調査

【定住環境】

医療施設従事医師数の状況 (単位：人)

	H18年	H20年	H22年	差引(H18-H22)
広島県全域	6,398	6,524	6,748	350
うち中山間地域c	418	412	390	▲28

※医師・歯科医師・薬剤師調査

学校数等の状況 (単位：校、人、%)

	H18年	H20年	H22年	H24年	H18-H24	
					差引	増減率
広島県	893	874	853	829	▲64	▲7.2
小中学校数						
児童生徒数	248,320	245,987	242,169	237,588	▲10,732	▲4.3
うち中山間地域c	201	191	179	164	▲37	▲18.4
小中学校数						
児童生徒数	17,339	16,318	15,634	14,988	▲2,351	▲13.6

※学校基本調査

◎県市町協議の意見(推進会議)、将来予想、課題

【人口、意識等】

県市町協議の意見

- ・中山間地域の継承者がいなくなりつつある。地域継承のサイクルが崩れつつある。
- ・地域に若者がいない。70歳台の方が、さらに上の年代の方を支えている地域もある。
- ・人口の減少幅が小さくなりつつある。地域から転出する人間さえ少なくなってきている。
- ・住民は地域に愛着を持っていると思う。マイナス思考が先に立ち中山間地域の良さが前面に出てきていない印象がある。
- ・住民に現状についての諦め感や他人事感、地域についての誇りの喪失が見受けられる。
- ・地域の将来像が見えないため、住民が不安感を抱いているのだと思う。

将来予想

- ・今後も人口は減少傾向で、減少率は広島県全域に比べ高い割合で推移する。地域の担い手の確保が困難になる。
- ・人口減少等により、今後の暮らしに不安感を抱く方が増加する。住民の諦め感が加速する。

※現状のまま推移した場合の仮説

課題 地域の継承者の確保の困難化 地域の将来像の不透明感（将来の地域生活への不安感）

【産業雇用、定住環境】

県市町協議の意見

- ・地域に雇用の場が少ない。産業の担い手も高齢化している。
- ・地場産業の衰退や企業の支店・公共施設の撤退などにより雇用の場が減っている。
- ・次のような課題がある。伝統行事や共同作業の実施、医療・買い物環境、鳥獣害対策、交通手段、安全・安心の確保、コミュニティの維持、教育環境など。

将来予想

- ・人口減少により、雇用や生活環境施設等が更に縮小する。
- ・祭事・行事などのコミュニティ活動の実施が更に困難になる。

※現状のまま推移した場合の仮説

課題 地域で暮らしを営むための機能の縮小（産業・雇用、定住環境）